

国営事業を契機とした集落営農組織の設立とその営農の高度化に貢献



ささもとあらい 篠本新井土地改良区

【千葉県山武郡横芝光町】

地区面積: 274ha
組合員数: 377人
主要作物: 水稻、麦、大豆、野菜



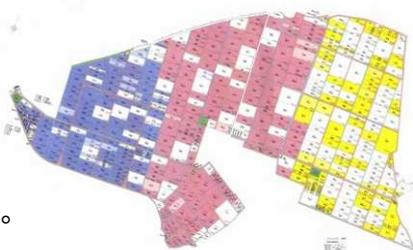
国営事業を契機に集落営農を確立

篠本新井地区では、国営両総土地改良事業(平成5~26年度)によって用水が安定供給されるようになったことを契機として、平成20年度から経営体育成基盤整備事業(受益面積: 265ha)に取り組んでいます。

土地改良区は、平成20年度から平成22年度にかけて、平均50a区画の大区画化に併せ、3集落の農家が所有する錯綜した農地を換地でそれぞれの集落周辺に集約し、労働生産性の高いほ場を実現しました。

また、換地手続きと並行して、集落別にアンケートを実施し農家との意見交換会など徹底的な話し合いにより、平成22年度に集落別に3つの集落営農組織を設立するとともに法人化しました。

これまでに3集落営農組織に集積した農地は、148ha(全体の64%)となっています。



集落別に農地が集約された状況

専門家の指導等による生産技術の向上

土地改良区は、平成24年度から県農業改良普及員OBを「農地高度利用支援員」として雇用し、栽培技術の指導や現地研修を行っており、FOEAS整備済みのほ場でブロックローテーションにより栽培された大豆は、単収が225kg/10aとなり、平成24年度の県平均単収130kg/10aに比べ、173%の高収量となりました。

また、集落営農組織のひとつ「アグリささと」は、「主要農産物種子法」に基づく、大豆の指定種子生産者に指定され、千葉県推奨品種の種子生産を始めました。



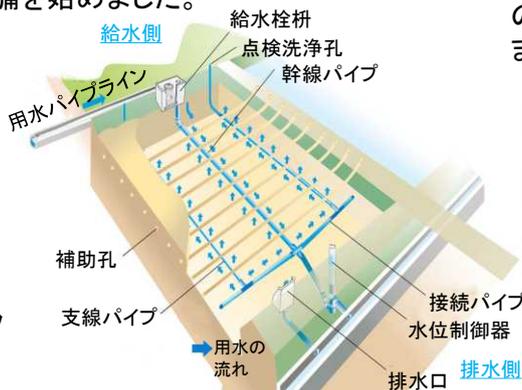
汎用コンバインでの大豆の収穫

FOEASの導入・ブロックローテーションの開始

土地改良区は、水稻・麦・大豆のブロックローテーションに適した地下水制御システム(FOEAS)の導入を集落営農組織等に働きかけ、平成23年12月に大区画化した農地全体にFOEASを整備することを決定し、整備を始めました。

また、土地改良区では、3集落営農組織がブロックローテーションを確実にこなうため、「農用地利用規程」や「ブロックローテーション細則」を平成24年11月に決めました。

既にFOEASを整備した50haの農地では、ブロックローテーションを開始しています。



地下水制御システム(FOEAS)

※出典: 農研機構ホームページ

農地・農業用水の保全

土地改良区が中心となって集落営農組織や周辺の非農家とともに平成19年に設立した「篠本新井地区農地・水・環境保全管理組織」は、地域全体で継続的に水路の除草、農道の維持補修など農地・農業用水の保全活動に取り組んでいます。



水路の草刈り作業



農道の補修作業